

主 な  
展 示  
物



台付壺  
(伽耶時代5-6世紀)  
上から自然釉がかかっている  
骨壺内器と思われる



錦絵「朝鮮安城渡激戦之図」  
明治27年8月10日印刷(1894年)  
日清戦争は1894年7月25日豊島沖海戦で始まるが、この絵は7月29日安城渡の戦闘を描いたもの。後日修身の教科書にのった「木口小平は死んでもラッパをはなしませんでした」という話はこの時の新聞報道から生まれた。



安重根獄中書  
「國家安危勞心焦思」  
現在確認できているのは、実物と写本をあわせて54点。当館はその内11点の複製を所蔵している。いずれも「庚戌三月(または二月)於旅順獄中 大韓国人安重根」と署名し、薬指を断った左手の掌印が押してある。



金冠（大韓民国国宝 191 号） 複製

慶州皇南大塚北墳出土 新羅 5 世紀前半

金冠の帯輪の中央とその両側に、天上と地上を結ぶ媒介体である木を図式化した出字と、裏面の両端に鹿角形の立飾りを立てた。立飾の各段に勾玉、瓔珞がつけられ豪華を極める。



朝鮮通信使行列人形

徳川家宣將軍襲職の祝賀の為、来日した通信使（第 8 回、1711 年）一行を、その頃描かれた絵を基に一部を表現。正使は趙泰億、総勢 500 名の行列に日本側もほぼ同数の武士や荷運人が従った。人形の作者は対馬の月見一博氏。



ハルモニ像 製作 金九漢

（1996 年作） 陶土の素焼き

沖縄で従軍慰安婦にされた裴奉奇さん（1914～1991）がモデルと言われている。彼女は貧農家に生まれ一家離散。一人沖縄で戦後も生きた



刺繍絵画 無窮花の故国

1913年、朝鮮の昌寧に生まれ、2008年まで川崎の桜本で暮らした盧末南（成玉）さんの作品。無窮花は韓国の国花。